

10・21法大&国会デモへ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年9月12日
No.223

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

「暴行」でっち上げ裁判第2回公判打ち抜く

9月10日、法政大学文化連盟委員長・武田雄飛丸君の「暴行」でっちあげ裁判の第二回公判が行われました。13時半の開廷に向けて朝から宣伝活動を行うと、用意してきた数百枚のビラがあつという間になりました。学生が立ち上がる姿に、多くの労働者人民の期待と注目があることを実感しました。

裁判前の傍聴整理券配布には首都圏大学からの多くの飛び入りはじめ、60名をこえる結集! 法大当局・公安警察・裁判所が一体となった、バイトを雇っての傍聴妨害をはね返す大結集となりました。

いよいよ開廷です。まず8月15日に保釈をかちとって意気軒昂たる武田君から、圧倒的な意見陳述が叩きつけられます。「大学が安倍の戦争政治の一大焦点と化している。だからこそ、大学の新自由主義化そのものを粉碎することなしに、大学の戦争協力ひいては戦争そのものを止めることは不可能だ。法大闘争の意義はますます高まっている。本弾圧は法大闘争に対する戦時下弾圧である。ここにこそ権力と結託した体制内『左派』の醜悪な本性が凝縮されており、本裁判闘争を通じて私は、田中優子の化けの皮をはがしつくし、法大闘争を10・21国際反戦デーにむけ巨大な反戦闘争として爆発させる」と、現場から新自由主義大学と真っ向激突する強い決意を表明するとともに、「本法廷で問われているのは私ではなく裁判所だ。戦争に加担していくのか否か、二つに一つだ」と裁判所のペテン的な「中立」を弾劾し、公訴棄却を要求しました。

今回の公判では「検察側証人」として3人が登場。一人目の証人である麹町署の公安警察・安東治は、法大当局から「事件の証拠映像」DVDを任意提出されたことを証言しましたが、途中で「捜査と関係なく、4月に資料として法政大学からDVDを受け取った」と、法大当局と公安との日常的な癒着を暴露。4月という新歓期に、敵は新入生



の力強い決起に怯えきって「情報共有」に熱中していたということであり、断じて許されません。

二人目の証人である麹町署の公安警察・武村悦夫は、法大外壕校舎門前での「実況見分調書」を作成した責任者です。「見分調書」は通常、その有効性を証明するために立会人の顔・名前を公開するのですが、武村作成の「調書」では、写真に写っている人物(武村と法大職員)は全員が意識的に後ろを向いて顔が見えないようになっています。弁護士にその点を質問されると、「顔と名前が分かると極左暴力集団に何かされるかもしれないから…」などと、自らがやっていることに何の正当性も誇りも持っていない支配階級としての弱さをさらけ出しました。

三人目は、法大弾圧の現場責任者である法大総務部庶務課長・浅野広人です。恥知らずにも偽証に偽証を重ねる浅野でしたが、弁護団の追及で「『学外者』という口実で全学連・文化連盟を日常的に監視・弾圧している」旨を吐露し、憔悴しきって力なく法廷から逃げ去りました。

裁判後の総括集会では、あらためて国家権力・田中優子の許しがたさを確認し、10・21国際反戦デーと一体で法大闘争を大爆発させるために闘う決意をみなぎらせました。武田君の無罪獲得と法大闘争勝利へ、ともに闘おう!

(法政大・T)

【10/21国際反戦デー闘争】

10月21日(火)13時半～ 法政大学包囲デモ
15時半～ 国会デモ (予定)



～大学の戦争協力阻止! 「大学改革」粉碎! 安倍政権打倒!～

◇全学連大会参加の感想

(沖縄大学生自治会副委員長・盛島琢允)

今回の全学連大会で、僕は「ハードルを下げたらいいのではないか。」という意見を聞いて「そういう考え方もあるのか。」と思いましたが、毎日のように変わるこの情勢の中でハードルを下げて周りの人が立ち上がっても、それ以上の問題に直面したときに果して闘えるのか？ かつての労働組合みたいに妥協もしくは闘えなくなって潰されるのではないか？

そう思うと「賛成できないな。」と思いました。僕は、今自分達が掲げている「思想」もしくは「考え方」を真剣に訴え、議論を重ね、そうした上で仲間を増やしていく事が大事だと思いました。

今「戦争か革命か」が問われている中で、「静観」「中立」なんてない。いずれ選ばなきゃいけないこの情勢。ならば今立ち上がらなければならない。僕たち学生が、世界を支えている労働者の力があれば、こんな世の中変えられると確信しています。

安倍が集団的自衛権容認したときから沖縄では辺野古新基地移設の工事が始まりました。これに対して沖縄の怒りが爆発して辺野古基地移設阻止の運動が起こっています。僕たち学生自治会が先頭に立ち全力で闘っていきたく思っているので、9・20の辺野古県民集会への結集よろしくお願ひします。また、基地建設阻止と一体で「基地反対」で処分された赤嶺知晃の処分撤回に全力で闘っていきたく思っています。そして今秋10月キャンパス集会と10.21国際反戦デー集会を闘う中で学生自治会のメンバーをなるべく多く集めて、団結



裁判後、弁護士会館で総括集会

をより強固にしていく決意です。

◇全学連大会参加の感想 (富山大2年)

今回の全学連大会は、7・1閣議決定を踏まえ、安倍政権打倒に向けての濃密な総括と議論の2日間になりました。

この2日間での、主な議題としては全学生にどう生きるのかを問い、党派闘争と運動へのハードルの高さについて活発に討論されました。討論の中では、法大・田中優子総長は「戦争をさせない1000人委員会」の呼びかけ人ともなっているし、打倒対象として捉えるべきかどうかという意見もありました。

しかし、ここで重要なのは法大・田中総長が、表で原発反対、戦争反対を訴えながら、裏ではそういった声を上げる学生たちを弾圧しているという事実です。

そういった現実を見る事で、やはり学生は資本と密着している当局側とは絶対非和解である事がわかります。こう捉えることで、当局側に立つ法大・田中総長、沖大・仲地博などが、いくら原発反対、戦争反対といっても私達は、彼らを打倒対象と据え、闘うべきだとつかむことができます。

運動におけるハードルについてですが、学生運動をやっている中で、ハードルという問題を考える事はあります。しかし、ハードルを下げ、方針を出したところで、新自由主義の側に立つ政府、当局、公安はこちらに合わせて行動してくれるわけではありません。ハードルを下げるという事は、相手に合わせて妥協していくということです。それはつまり、やがて自分たちの方針は体制内勢力と変わらないものになり、声を上げられなくなるという事です。

私達が目指すものは、もっと主体的に自分達学生で原発反対、戦争反対の絶対反対の声を上げ続けることです。そういった方針を出していったところに、次に私達が目指すものは、10・21に行う国際反戦デー行動です。ここでの行動は必ずその後の全国学生運動に大きな影響を与えていくものになります。今回の全学連大会でつかんだ時代認識と方針をもって、2014年の闘争を勝ち進んでいきましょう。

【当面する行動方針】

●市東さんの農地強奪阻止！ 10・12三里塚全国総決起集会

10月12日(日) 正午～ 三里塚現地にて 【主催】三里塚芝山連合空港反対同盟

●11・2全国労働者総決起集会

- ◆世界の労働者と団結し、戦争と民営化の道を許すな！ ◆今こそ闘う労働組合を全国の職場に！
- ◆国鉄1047名解雇撤回・JR外注化阻止！ ◆集団的自衛権行使一改憲と戦争の安倍政権打倒！
- ◆福島を先頭に全原発廃炉へ！

11月2日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて

【呼びかけ】全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部／全国金属機械労働組合港合同／国鉄千葉動力車労働組合

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第3回公判

11月7日(金) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて

※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。